届け 世界の果てまでも

令和４年７月１５日　Ｎｏ．２６　文責　校長　飯久保一男

切り返す言葉

麻生太郎元首相は，海外で人気のある政治家だそうです。
その理由の一つになるのかわかりませんが，こんなエピソードが紹介されています。

麻生さんが日本の首相として国連の総会でスピーチをしようとしたときのことです。
突然マイクが故障して，しばらく待たされることになりました。
その後，壇上に立った麻生さんは，マイクをしげしげとながめて英語でこう言ったのです。
「やっぱりね。このマイク，*Made*（メイド） *in*（イン） *Japan*（ジャパン） じゃないや。」
このひと言で場内は爆笑に包まれ，麻生さんは
「ピンチでジョークが言える日本人」
として有名になったのだそうです。

前号で緊張について書きましたが，首相でさえも緊張するであろう国連でのスピーチという場面で，気持ちをコントロールするだけでなく，ジョークやユーモアで切り返すということは，かなりレベルの高い話術です。

６月２２日の校内研究会は「子どもを主体にする授業」「学び合う授業」はどのような授業であるべきかを私が提案して研究協議を行いました。提案の一つとして，教職員が子ども役になり，私が教師役となる「模擬授業」も行いました。教職員が同じ授業のイメージもって取り組むことが大きな成果につながります。口での説明や文書での提案ではイメージをつくりにくいので，授業の形をとりながら，子どもへの対応や授業の進め方を確認しながら実際に授業を体験してみるのが模擬授業です。

研究会を終えて，何人かの教職員から
「授業のイメージができました」
と感想をもらいました。その中で
「校長先生の発言の受け取り方，切り返し方がすばらしいと思いました。」
とお世辞と思われる話がありました。恥ずかしながら，３８年の教員経験がありますので，それなりの話術は心得ています。教師がしゃべり過ぎない授業をするべきだと提案しながらも，模擬授業でしたので，授業での子ども（役）の発言に価値づけをし，その発言に対する教師の姿勢や態度について細かく説明してきました。
「反対の考えが出ても，楽しい雰囲気で校長先生が切り返していたので，自分も発言したくなりました。」
と，お世辞のたっぷり入った感想ももらいました。授業がいつも楽しい雰囲気で行われ，子どもたちが失敗を気にせずに発言できるようにするための一つとして，教師の「話術」や「切り返しの言葉」があると思います。これらは，教師の力として必要なことだと改めて感じました。一人一人の子どものことを考えて実践していくことで，身に付く力だと思っています。

子どもたちのナイスな切り返しの言葉を集めてみました。

母　「学校で好きな子いるの？」
息子「みんな好きだよ。」
母　「かわいいと思う子は？」
息子「みんなかわいいよ。」
母　「しいて言うなら？」
息子「一人の子をかわいいって言ったら，他の子がその子よりかわいくないみたいでしょ。
　　みんな大好きだし，かわいいよ。」

娘が食事をつくってくれ，レストランのようにセッティングされたテーブルに座った。
メニューは，特製オムライス・デザートのロールケーキ・アイスクリーム・食後のコーヒーだった。
食べ終わって
私　「お会計は？」
と聞いてみたら
娘　「私は営業したいのではありません。皆さんの笑顔のために料理しているのです。」

味に自信がなかったので，夫が一口食べたあと，料理の感想を聞いてみた。
私　「うすい？　濃い？」
夫　「ん…，大丈夫。」
息子「お父さん，そういうときは『おいしい』って言うんだよ。」

夫が娘のほほにチュッチュとキスをした。
娘が泣きそうな顔になってやってきた。
私　「どうしたの？」
娘　「パパにつばかけられた…。」　※切り返しの言葉ではないですね。

娘　「ママ見てて。」
苦手な野菜を食べて見せ，得意げな娘。
娘　「もう食べられるよ。」
ちょっと感動しながら頭を撫でたら
娘　「ママの笑顔がいちばんおいしかった。」

長男の食欲がなくて，保育園の給食を食べられないことが何日か続きました。
お迎えに行ったとき，先生と妻が相談している会話を長男が聞いていました。
先生曰く，もう少し大きくなって「育ちざかり」になれば，食欲が出ますよ。
長男が会話に割り込みました。ウチの一番の「育ちざかり」は父さんだよね。